

杉並区教育委員会  
大藏 雄之助教育委員長 殿

## 公立中学校における教科書採択に関する要望書

2009年6月29日

在日本大韓民国青年会東京本部  
会 長 朴 裕 植

本会は18歳から30歳までの在日韓国人青年で構成される在日本大韓民国青年会と申します。私たちは過去の日本帝国主義による植民地支配によってこの地に居を構えるに至った歴史を持つ3世、4世の世代でもあります。

私たちはこれまでも、過去の侵略戦争による植民地支配を肯定する発言に対し、断固として抗議の声を挙げて参りました。それは過去の歴史への反省と教訓の上に立ち、多くの人々が並ならぬ努力で構築してきた韓日の友好関係へ、大きな溝をつくる行為に他ならないと考えたからでもあります。また韓日両国のみならず、周辺諸国との共存・共栄をすすめる事は、平和と人権尊重を望む国際社会の中での、私たちの強い願いでもあります。

そのためには国際社会に通用する歴史からの教訓と人権を尊重する教育が必要だと考えます。私たちも日本の教育現場において、韓日の更なる友好発展のために、文化交流や人権啓発の講師として、多くの場面で草の根の活動を行なっております。それはこれからの時代を担う子どもたちへ、多文化を受け入れ、人権を守る豊かな社会を目指してもらいたいという願いの上に立ってのものであります。

さて今年は、2010年度2011年度に公立中学校において使用される教科書採択の年です。ご存知の通り杉並区では2005年の教科書採択によって、扶桑社版の歴史教科書が公立中学校において使用されております。

扶桑社版の教科書は、先の侵略戦争を「アジア解放のための“大東亜戦争”」と賛美し、日本の植民地支配と侵略の歴史を美化するものであると、内外問わず、大きな反対の声が挙がっていることはご承知のことと思われまます。また、これまで扶桑社版教科書の執筆と普及に努めてきた「新しい歴史教科書をつくる会」は内部抗争を繰り返した末に分裂し、つくる会が関与する教科書が、新たに自由社から出版される異常な事態となっております。いうまでも無く、自由社版の歴史教科書も扶桑社版教科書と同じく、植民地支配を正当化し、使用する生徒にアジア蔑視を誘発する内容となっており、公教育において使用するに耐えるものではありません。

私たちはこのような教科書が教育の現場で使用されることには、強い疑念と不信を抱いております。

多くの在日同胞の子どもたちも、日本の公教育に身をおいている現実があります。私たちは歴史教育において、これまでアジアとの溝を埋めきれない現実と向き合い、それを友好の姿勢をもって克服しようとする意志を伝えることは、未来を構築する子どもたちにとって、とても大切なことであると考えています。また実際に子どもたちと接する教える側である現場の教員の声も大切です。その声をしっかりと受け止め、正当なご判断をして頂きたく存じます。

当然、地域住民の声に基づいて、公平かつ公正なご判断を行なう貴教育委員会が、特

定の思想や政治的な圧力によって、特定の教科書を支持することなどはありませんが、去る 2005 年の教科書採択において内外の反対を押し切る形で扶桑社版「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書を採択した経緯を考える中で、私たちはこのように要望書を伝達することに至りました。

本会は、以下の事柄を貴教育委員会に要望いたします。

#### 要望項目

- 一、 杉並区教育委員会は、2009 年度に実施される教科書採択に関して、扶桑社版及び自由社版の教科書を採択しないこと。
  
- 一、 更なる平和と人権尊重、国際協調を目指した教育を推進すること。